

対シリア・アラブ共和国 事業展開計画

2010年8月1日現在

【外交政策上の特記事項等】

- シリアは中東和平達成の鍵を握る重要な当事国であり、伝統的に我が国と良好な関係を維持していることから、地域の平和と安定に向けたシリアの積極的な参加を促すために、我が国はODAを実施してきている。
- バッシヤール大統領は、経済の自由化・社会市場経済の導入を鮮明にし、各分野で改革を進めている。シリア経済は、近年、堅実な成長を維持する一方で、若年層の高い失業率、国内の地域格差、国営事業の効率化等、直面している課題は多く、我が国として、シリアが歩む現在の改革路線を支援していく必要がある。

【援助重点分野】 水資源管理と効率的な利用																
【開発課題】	【現状と課題】				【開発課題への日本の対応方針】											
	絶対量が少なく季節的・地域的に偏在する水資源の管理と効率的な利用が、シリアの中長期的な開発を進める上での基本的課題であり、まず、各流域の水収支を定量的に把握することが重要である。また、都市部における生活用水需要の急増も課題となっている。特に首都であるダマスカスの人口増加率は約4%と高く、新たな水源開発及び既存の施設の更新などが必要である。加えて、全水消費量の約80%が農業に使われており、農業分野での節水の重要性は高い。				水資源管理の能力向上、安全な水を供給するための水資源確保、農業用水の効率的利用を柱に協力を展開する。「水資源情報センター」の全国展開に向けて、他ドナーと連携し、引き続き我が国の協力を継続・発展させる。また、今後は維持管理にかかる技術協力とともに、首都圏における供給量の確保に資する協力を実施する。農業用水の効率的利用については、技プロ「節水灌漑農業普及計画」フェーズⅡの実施により、さらなる充実化と協力地域の拡大を図る。											
協力プログラム名		協力プログラム概要		プロジェクト名		スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備 考		
							2009 年度 以前	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度				
水資源管理と効率的な利用	水資源管理と効率的な利用プログラム		水資源管理能力の向上、安全な水を供給するための水資源確保および農業用水の効率的利用を柱に協力を展開する。また、今後は地方部を含む協力地域の拡大を目指す。		水資源管理に係る人材育成協力		個別専門家	■								
					水資源管理に係る人材育成協力(1人)		SV	■								
					水資源管理に係る人材育成協力(3件)		課題別研修他	■								
					水資源情報センタープロジェクトフェーズ2		技プロ		■						7.30	
					安全な水供給に係る人材育成協力(2件)		課題別研修	■								
					上水道管理技術向上プロジェクト		技プロ			■						
					節水灌漑農業普及計画プロジェクト・フェーズ2		技プロ	■							3.80	
					節水灌漑普及支援に係る人材育成協力(2人)		JOCV	■								
					節水灌漑普及支援に係る人材育成協力(2件)		課題別研修他	■								

【援助重点分野】 環境保全		【開発課題】		【現状と課題】		【開発課題への日本の対応方針】					
協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備 考
				2009 年度 以前	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度		
環境保全	環境保全プログラム	急速な都市化および産業開発が引き起こす水質、大気、廃棄物等、環境汚染の進行が問題となっている。シリアでは1987年に環境省が設立され、2003年に環境保護法が制定された。しかしながら、シリアの環境管理や環境行政は未だ緒についたばかりであるため、技術者や行政官の能力強化や法制度整備も課題である。また、増加する都市人口に対応した都市衛生の向上のために、廃棄物管理や下水処理の改善が課題である。	【開発課題への日本の対応方針】 環境行政能力の向上、下水処理の改善、廃棄物管理の改善を柱に協力を展開する。成果としては、急増する下水処理施設を設計・運転維持管理するための人材育成を通じた下水処理の改善、環境モニタリング体制構築及び同データ活用を通じた環境行政能力の向上、廃棄物収集能力の強化や最終処分場改善を通じた廃棄物管理の改善とする。また、住民が環境に対する意識を向上させる協力も行う。シリアにおける水分野協力の重要性から、水資源プログラムとの連携に留意し、環境分野においても特に水質管理を重視して進めていく。							3.60	
		全国環境モニタリング能力強化プロジェクト・フェーズⅡ	技プロ	■	■	■	■				
		環境行政能力向上に係る人材育成協力(3件)	課題別研修他	■	■	■	■				
		環境教育に係る人材育成協力(1人)	JOCV	■	■	■	■				
		環境教育に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他	■	■	■	■				
		下水道維持管理に係る人材育成協力	個別専門家	■	■	■	■				
		下水道維持管理に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他	■	■	■	■				
		全国下水道人材育成プロジェクト	技プロ	■	■	■	■			2.60	
		地方都市廃棄物処理機材整備計画	無償	■	■	■	■			3.80	
		第二次地方都市廃棄物処理機材整備計画	無償		■	■	■			9.85	
		廃棄物管理に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他	■	■	■	■				
		太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画	無償		■	■	■			5.60	
太陽光発電に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他	■	■	■	■						

【援助重点分野】		経済・社会システムの近代化											
【開発課題】	【現状と課題】			【開発課題への日本の対応方針】									
	<p>政府主導の開発政策は、公的部門に雇用を吸収することによって失業問題の緩和に貢献してきた。しかし、公的部門に余剰労働力を抱え、生産・サービス効率の低下と公的部門賃金の低下も生み出してきた。これに対処するために経済の一層の自由化を通じた民間部門の活性化と海外からの投資資金の吸収が求められている。一方、石油収入の赤字転落により、補助金による安価な社会サービスの提供が困難となっており、補助金政策の段階的削減が実施されている。このような状況の下、シリアの諸産業の近代化を進める必要があり、民間・海外からの投資促進のための市場経済システム及び社会基盤の整備が喫緊の課題である。</p>			<p>順調な経済成長及び民間、海外からの投資促進の支えとなるよう、各種経済基盤インフラ部門にかかる政府職員の政策立案・運営能力の向上を目指す。具体的な分野としては、首都圏都市基盤や電力供給、マクロ経済政策運営支援にかかる協力を展開する。</p>									
経済基盤整備	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考	
					2009 年度 以前	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度			
	経済基盤整備プログラム	民間・外国からの投資促進のための市場経済システムおよび経済基盤整備に焦点をあてた協力を実施する。	ダマスカス首都圏都市計画・管理能力向上プロジェクト	技プロ		■	■	■					
			都市計画に係る人材育成協力(2件)	課題別研修他		■							
			物流システム近代化計画プロジェクト	技プロ		■							
			物流システム近代化に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他		■	■	■					
			電力分野基礎情報収集調査	協準			■						
			現地国内研修強化	有償勘定専門家			■						
			マクロ経済政策支援	個別専門家		■							
			マクロ経済政策支援(3件)	課題別研修他		■	■	■					
			応用一般均衡(CGЕ)モデル構築運用能力向上プロジェクト	技プロ			■	■	■				
ICT化推進支援			現地国内研修			■							

【開発課題】	【現状と課題】		【開発課題への日本の対応方針】						支援額 (億円)	備考				
	協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間									
産業近代化のための 人材育成	産業近代化のための 人材育成プログラム	中小企業振興のための人材育成を実施する。	工業会議所を通じた中小企業振興人材育成協力(9人)	SV	2009年度以前	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度				
			総合経営管理	国別研修										
			中小企業振興に係る人材育成協力 (1件)	課題別研修他										
			職業訓練に関わる人材育成協力(8人)	SV										
			ティシュリーン大学メカトロニクス学科支援(1人)	SV										
			ティシュリーン大学メカトロニクス学科支援(1件)	課題別研修他										
			輸出戦略に関わる人材育成 (1人)	SV										
			貿易振興に関わる人材育成協力 (2件)	課題別研修他										
			観光振興に関わる人材育成協力 (2人)	SV										
			アル・バース大学獣医学教育強化計画等家畜衛生分野に関わる人材育成協力(1人)	SV										
			アル・バース大学獣医学教育強化計画等家畜衛生分野に関わる人材育成協力	国別研修										

【援助重点分野】		社会サービスの拡充												
【開発課題】	【現状と課題】 保健医療サービスは、医療保険制度の導入や保健財政改革など制度の近代化を図ると共に、特に北東部を中心とする開発の遅れた地域とダマスカス等都市部の間で拡大する地域格差の是正が課題となっている。 障害者および貧困層支援については、シリア政府による支援が都市部の施設型に偏っているため、村落部における地域資源を活用した包括的な社会的弱者の環境改善が課題である。特に、障害者による当事者団体や国内NGO、新規に導入されたCBR (Community-Based Rehabilitation: 地域に根ざしたリハビリテーション) ユニットを通じ、シリア政府の政策に即した支援を行うことが必要とされる。			【開発課題への日本の対応方針】 保健及び社会的弱者の環境改善については、基礎医療サービスの地域格差是正を目指し、アレppo県及びイドリブ県の村落部を対象にしたリプロダクティブヘルス強化の促進と周辺県への普及、および北東部における小児保健医療機材整備を進める。また、障害者の自立支援として協力の焦点であったダマスカス郊外県でのCBR事業推進については、国別研修による人材育成支援に絞って協力をを行い、シリア政府の主体的な事業取り組みの促進に努める。										
	協力プログラム名	協力プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備考		
2009 年度 以前	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度									
保健・社会的弱者 の環境改善	保健・社会的弱者の 環境改善	保健医療サービスの地域格差 是正および社会的弱者支援を 二本柱として支援を実施する。	リプロダクティブヘルス強化プロジェクト・フェーズⅡ	技プロ	■	■	■	■				3.20		
			救急医療体制整備計画	無償	■								8.61	
			地域保健サービス向上に関わる人材育成協力(1人)	JOCV	■	■								
			地域保健サービス向上に関わる人材育成協力(2件)	課題別研修他	■	■	■							
			CBR事業推進	個別専門家	■	■								
			CBR事業推進(3人)	JOCV	■	■								
			CBR事業推進(3件)	課題別研修他	■	■	■							
			障害者支援	国別研修		■	■	■						
			病院管理に係る人材育成協力 (1件)	課題別研修他		■	■	■						
			草の根・人間の安全保障無償資金協力(基礎医療拡充・社会的弱者自立支援等4件)(2009年度)	草の根無償	■	■								0.32

【開発課題】	【現状と課題】		【開発課題への日本の対応方針】										
	協カプログラム名	協カプログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	備 考	
基礎教育の拡充	基礎教育の拡充	子どもの発達に応じた就学前教育を普及するため幼稚園教員の啓発および能力強化のための教材・指導書作成および運営管理支援を実施する。また、青少年のスポーツ振興のための協力として、ボランティア派遣によるスポーツ指導を引き続き展開するとともに、ダマスカス大学およびアレppo大学における日本語教育指導を継続する。	教育分野基礎情報収集調査／プロジェクト形成調査	協準	2009年度以前	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度			
			幼児教育の改善に係る人材育成協力(7人)	JOCV									
			幼児教育の改善に係る人材育成協力(1件)	課題別研修他									
			日本語教育指導に係る人材育成協力(3人)	JOCV									
			日本語教育指導に係る人材育成協力(1人)	SV									
			アレppo大学学術交流日本センター日本語学習機材整備計画	文化無償								0.24	
			ダマスカス大学人文学部日本語学科日本語教育機材整備計画	草の根文化								0.01	
			スポーツ指導(サッカー、水泳、新体操、柔道、卓球、バドミントン等)に係る人材育成協力(11人)	JOCV									
			スポーツ指導(サッカー、合気道、空手)に係る人材育成協力(3人)	SV									
			ダマスカス県スポーツ設備管理局スポーツ器材整備計画	草の根文化								0.09	

【援助重点分野】 地域安定化促進		【開発課題】										
【開発課題】	<p>【現状と課題】</p> <p>地域の安定化のためには、シリア国内の難民支援と、周辺国に対する支援が必要である。シリアには約44万人のパレスチナ難民に加え、推定120万人のイラク人難民が流入している。難民キャンプの劣悪な環境は、シリアのみならず地域の不安定要因になりうることから、長期化している難民の生活環境の改善及び知識や技能の修得を通じた難民の生計能力向上を図るための支援が求められている。なお、シリア政府はこれまで難民キャンプの整備は難民の帰還権に否定的な予見を与えるとの理由で消極的であったが、近年、帰還権と切り離して難民キャンプの再建を推進する方向に転換しつつある。</p> <p>また、紛争後の復興が必要な周辺国に対しては、過去の日本の協力によって、シリアに蓄積された知見・経験を活用して、当国における第三国研修を通じて、人材育成の支援を行うことができる。</p>											
	<p>【開発課題への日本の対応方針】</p> <p>シリア国内の難民支援として、パレスチナ難民キャンプ内の生活や経済活動の改善支援及び帰還後の就業に資する人材育成支援を引き続き実施する。また、難民キャンプの環境改善等について、国際機関を通じた支援に積極的に協力する。イラク難民については、シリアに対する二国間協力を実施する際に、同難民がシリアの社会経済に与えている影響を踏まえて案件形成を行う。</p> <p>周辺国に対する支援は、主として、シリアでの第三国研修を通じて行う。イラク及びアフガニスタンの復興・発展には労働人口の多数が従事している農業分野への協力が不可欠であるところ、乾燥地農業分野の中心的な研究機関である国際乾燥地農業研究センター(ICARDA)の知見を活用した第三国研修を引き続き実施する。また、長年、日本が協力したジャンダール電力研修所を活用して、イラクやイエメン向けに電力分野で支援を行う。</p>											
	プログラム名	協プログラム概要	プロジェクト名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	実施ステータス/備考
	地域安定化促進	シリア政府や国際機関と協力して、中東地域内の安定化を目指し、パレスチナ、イラク、アフガニスタン、イエメンを対象にした協力を行う。	UNRWA パレスチナ難民支援協力(11人)	JOCV	2009年度以前	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度		
			UNRWA パレスチナ難民支援協力(4人)	SV								
			イラク向け農業研究人材育成支援	第三国研修								
			イラク向け農業研究人材育成支援フェーズ2	第三国研修								
			UNRWA ネイラブ・パレスチナ難民キャンプ整備計画	無償								3.89
			UNRWA ネイラブ・パレスチナ難民キャンプ再建支援(1人)	JOCV								
			イラク向け電力人材育成協力	第三国研修								
イラク向け電力分野人材育成フェーズ2			第三国研修									
アフガニスタン向け農業人材育成			第三国研修									
UNRWA母子健康手帳の導入			マルチ									2009年度通常拠出からのイヤマーク

【凡例】「協準」(=全ての協力準備調査)、「詳細設計」(=有償助定技術支援による詳細設計)、「技プロ」(=技術協力プロジェクト)、「開発計画」(=開発計画調査型技術協力及び旧来の開発調査)、「個別専門家」,「個別機材」,「国別研修」,「課題別研修他」(=課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(=青年海外協力隊)、「SV」(=シニア海外ボランティア)、「第三国専門家」,「第三国研修」,「科学技術」(=科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(=草の根技術協力)、「〇〇省技協」(=外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「無償」(=以下に特記するサブスキームを除く全ての無償資金協力)、「ノンプロ」(=ノン・プロジェクト無償)、「草の根無償」(=草の根・人間の安全保障無償)、「日本NGO」(=日本NGO連携無償)、「一般文化」(=一般文化無償)、「草の根文化」(=草の根文化無償)、「有償」(=円借款)、「マルチ」(=国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「実線」(=実施期間)、「破線」(=実施予定期間)